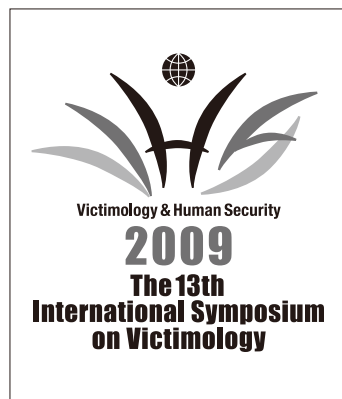


未来が求める、その先の学び舎へ。

◎2009年、学校法人常磐大学開学100周年
新しい時代を築く記念事業の推進
「第13回国際被害者学シンポジウム」開催準備進む



常磐大学では、8月23日～28日を会期として、世界被害者学会と共催で「第13回国際被害者学シンポジウム」を開催する。

被害者学は1950年代に提唱され、その後、さまざまな犯罪や事故などの被害者およびその家族や遺族を対象に、被害による身体的、心理的、社会的、経済的な影響とその回復、さらに被害者の権利確立や有効な支援のあり方などについてあらゆる角度から研究する学問として発展してきた。常磐大学では開学時より、「被害者学」を開講するほか、国際被害者学研究所や大学院被害者学研究科を開設するなど、被害者学の研究教育に熱心に取り組んできている。

今回のシンポジウムには、世界各地から研究者のみならず実務家も多数参加し、メインテーマ「被害者学と人間の安全」の下に活発な討議が行われる予定だ。常磐大学の学生には、国際会議での発表の機会を提供するのはもちろん、シンポジウムの運営補助として、英語力を試す場、国際交流の貴重な体験の場を提供することができる。

プログラムの内容や参加登録の方法など、シンポジウムの詳細はウェブサイトに掲載している。

●第13回国際被害者学シンポジウムURL <http://www.isv2009.com/>

授業のあり方を科学する「教育実践研究所」開設

教育機関で日々行われている授業のあり方を体系的に捉え、より優れた効果的な教授法を追究する「教育実践研究所」が設立された。

この研究所の目的は、学校法人常磐大学の趣旨に則り、教育法、教材作成、授業評価法などについて実証的、実践的に研究すること。研究にあたるのは、所長、教員および研究員で、法人が設置する各学校の教員が兼務することもできる。開設当初は初等・中等教育レベルでの研究に取り組むが、将来的には高等



●情報メディアセンター5階に設置された教育実践研究所。

教育レベルの研究にも取り組むことになっている。また、研究成果を教育の現場に反映する取り組みも積極的に推進。研究所の活動内容をまとめた研究報告書、研究所紹介誌などの刊行物、発行物の編集および出版や、研究に関連するシンポジウムおよび専門講座の開催などが検討されている。

学校で行われる教育の実践は、主に教員が行う日々の授業で具現化される。だからこそ、教員がルーティン化された教員生活の中で、教育の目的にかなった授業を自分自身がやっているかどうかを見失ってはならない。授業とは、生徒一人ひとりのために与えられる、教員からの心のもった「贈り物」なのだ。その重要性を再確認するためにも、教育実践研究所が教員自ら日頃の授業を振り返り、デザインしていく活力を取り戻す場として十分に機能することが期待される。

Tokiwa Memories*5



見和キャンパスへの通路
(1968年頃) *解説=8p

■ 心理臨床センター講演会開催

女性のより良い生き方を心理学の視点から提案

● フェミニスト支援の重要性を訴求する

常磐大学心理臨床センターが主催する公開講演会が、3月14日に開催された。年に1、2回のペースで行われるこの講演会も、今年で6年目。ストレス要因が山積する社会環境を背景に『心』に対する市民の関心も年々広がりを見せ、今回は学生や一般の方たち約100名の受講者が会場に詰めかけた。



今回は、相模女子大学人間社会学部教授で臨床心理士の小柳茂子氏を講師に迎え『女性の生き方』をテーマに講演していただいた。小柳氏は長年フェミニスト支援に取り組み、女性のためのカ



ウンセリングを実践。1980年代から女性のアイデンティティを確立する活動を行ってきた。講演では、女性が職業人として、また家庭人として自分らしく生きる難しさを、自らのカウンセリング体験を通して紹介。また「現在は女性の意思が尊重される時代」と、改善傾向にある現状にも触れ、「女性の選択肢は増え、多様な生き方も可能になりましたが、それは、満足できる生き方が簡単に手に入るようになったということではありません。手に入れた自由を生かせる力を持ってください」と、女性自らも向上心を持つようアドバイスしていた。

■ 財団法人短期大学基準協会による評価結果

常磐短期大学は第三者評価の結果、「適格」と認定

● より一層の教育研究水準の向上を目指す

常磐短期大学は、財団法人短期大学基準協会による平成20年度第三者評価の結果、平成21年3月24日付で「常磐短期大学は、短期大学基準協会が定める短期大学評価基準を満たしている」ことから「適格」と認定された。

第三者評価（認証評価）とは、学校教育法の改正に伴い、2004（平成16）年度から、すべての大学院・大学・短期大学に対して、政令で定める期間毎に受けることが義務付けられた制度である。文部科学大臣の認証を受けた認証評価機関から、教育研究、組織運営、施設設備、財務等の総合的な状況について、評価を受ける。

常磐短期大学では、今回の第三者評価結果と短期大学基準協会から頂いたご意見を謙虚に受け止め、教育研究、学生支援および管理運営等の質的向上のため、これからも改善・改革に努めていく。

第三者評価結果および自己点検・評価報告書については、ホームページを通じて広く公表している。



■ 読売新聞東京本社水戸支局・常磐大学連携事業

2009年度の連続市民講座 第1回 5月30日開講

● 「グローバルな危機における生活と環境の再生」

常磐大学では昨年度に引き続き、読売新聞水戸支局と連携して市民向け講座を開講する。2009年度のテーマは「グローバルな危機における生活と環境の再生」。全世界を巻き込んでいったグローバル化は、私たちの生活する地域（ローカル）にどのような影響を及ぼしているのかを医療、環境、経済などを通して多角的に考える。講座は2009年5月から2010年3月までの1年間を通して、全7回開講する。受講料は無料。お問い合わせは、常磐大学地域連携センター（TEL：029-232-2652）まで。

2008年度読売新聞東京本社水戸支局・常磐大学連携事業
「地域社会の安心・安全・安定を考える」
講演集発売

昨年好評のうちに終了した連続市民講座を、講演集として販売する。全13回の講座を上下巻とし、上巻を5月20日から、常磐大学紀伊屋書店センター（TEL：029-232-0008）で販売する。定価1,000円（税込み）。下巻は9月販売予定。



TOKIWA INTERVIEW ⑫

複雑化する社会における
大学のあり方

～アメリカ民主主義の原点に学ぶ～

渥美 東洋氏 (学校法人 常磐大学 理事)

世界的な金融危機の煽りを受けて、政治、経済共に混迷する日本社会。このような時代に、地方の教育機関はいったいどのような教育を行うべきなのだろうか。犯罪に関する政治、経済、法の専門家である渥美東洋先生にお話を伺った。

「まず、社会の仕組みを考える必要があります。そのためには、近代社会のモデルとなっているアメリカ合衆国の民主主義を理解しなければなりません。アメリカ大陸への移民は、当初、イギリスなどの植民地政策として始まりました。しかしその後、イギリス本国で迫害を受けたピューリタンたちが入植を開始。先発のクェイカー、アングリカンチャーチの信者などと共存し、対立しながら勢力を伸ばしていきます。その過程で、アメリカを構成する基本となる“town”（村落共同体）が形成されました。しかし、このように違った宗教や考え方を持つ人たちが、それぞれ認め合い、尊敬し合いながら“town”を作るにはどうしたら良いか。そこで生まれたのが『民主主義』という考え方です」

このような考え方に基づき外国から侵されず、国内の対立を少なくする民主主義国家を作ったのは、人類の歴史の中で合衆国憲法を制定したアメリカ合衆国が初めてのことだ。

「彼らは民主主義の欠点も知っていました。その欠点とは、多数による独裁に陥りやすい政治形態であるということ。そこで、国家と個人間や国家とコミュニティ間のバランスをとる仕組みを取り入れました。それが、権力分立と言われる考え方です。司法・立法・行政がそれぞれ違った関係にあって、互いにチェックしバランスを取る。つまり、民主主義社会だからこそ、三権分立による権力に対する監視が必要なのです」

かつての日本で、この民主主義社会に最も近い社会形態と習俗をもっていたのは江戸中期か末の時代だ。幕府、藩、寺院、農民、商人と、それぞれが持つ力のバランスを維持し村落や町衆が一定の力をもって社会を動かしていた。

「本当はそれを基本に改良すれば良かったのですが、統治の形態としてヨーロッパ的なものを取り入れようと、強引に時計の針を逆に回した。そして天皇制を敷いた明治体制のもと、中央政府が中心となって動かしていく仕組みを整備しました。その結果、人間関係が稀薄な遠くのものに操られる社会になってしまった。これでは日本の国は駄目になってしまいます。お互いに尊敬し合って助け合い、しかも自分たちで責任を持って利他に基づいて自

治できる社会を作る必要があります。コミュニティ振興学部は、そのために何をすべきかを考える学部だと思います」

列強に追いつくために取った明治政府の政策は時代遅れとなり、すでにコミュニティ形成の障害となっている。

「法は民主主義社会を作り上げる上で、最後の抽象的な道具です。この道具は何のためにあり、どう使えば良いのか分かっていないと習俗を育むコミュニティは再生できません。地方と国の関係は地方自治法でどうなっているのか、また、国全体の法体制はどうなっているのか。財政面でも、地方と国はどう分けられているのか。それぞれ、そのバランスと権力偏在への監視が重要です。そういった意味で、地方にあるということはプラスに働きます。アメリカが独立するときに考えたように、なぜ自分たちは中心に置かれぬのか考えることができるからです。また、これからは身近な人間の助け合いが重要視される社会になると思います。そのためには、地域の倫理的基盤（習俗）を育てる必要があります。水戸には徳川斉昭や藤田東湖など多くの先人がいました。そういった人物に、尊敬と批判の気持ちを持ちながら学ぶことも大切になります。自分たちの地域を知り、どう行動すべきかを考えることが、国や世界に貢献できる豊かな人間性を育てることにつながるからです。水戸で地域や国の振興を考えるためには、タウン（村落）が中心となって出来上がった近代アメリカの民主主義とは何であったのかを理解し、それになぞらえながら、水戸の経済、通商、法制度を学ぶことが必要なのではないでしょうか」

地域特性を活かし、民主主義の原点に立ち、個人主義に立ちつつ、利他を忘れずに考える。それが今、地方の教育機関に求められる役割のひとつだと思う。

PROFILE



あつみ・とうよう●1935年生まれ。中央大学法学部法律学科卒業、法学博士（中央大学、1978年）。専門は犯罪と法、主として刑事訴訟法。中央大学教授を経て、1993年総合政策学部長に就任。（学）中央大学理事を10年以上務める。2005年中央大学名誉教授、警察大学校名誉教授、京都産業大学大学院法務研究科教授に就任、現在に至る。

来春卒業予定の学生は4月から5月に就職試験のピークを迎えた。今年度は採用数削減や採用見合わせをする企業が一部出しており、就職環境は過去数年と比べると明らかに厳しくなっているが、従来どおりの採用数を維持する企業も少なくはない。学生が早くから十分な準備をして真剣に就職活動に取り組めば、満足できる就職を実現することは十分可能である。

常磐大学・常磐短期大学キャリア支援担当では、このような就職事情に対応した様々な支援プログラムを用意して学生の就職をサポートしている。各種対策セミナーの開催はもちろん、学生それぞれの志望や個性を十分尊重した指導をモットーに、あらゆる相談に応じている。

● 2008年度就職状況報告

2008年度の就職率は大学が89.1%（前年度90.7%）、短大は96.6%（前年度96.8%）であった。年度前半では企業の積極的な採用姿勢が続いていたが、後半の秋以降では多くの企業が慎重・抑制へ方針転換した。このため、就職活動開始が遅れた学生にとっては厳しい就職環境となった。

大学の就職先では前年度同様に郵政グループや茨城県信用組合、常陽銀行、関東つくば銀行、茨城銀行、水戸信用金庫等の金融機関、ケーズホールディングス、カスミ等の県内大手小売業、茨城日産自動車、茨城トヨペット等の地元大手ディーラーや東日本旅客鉄道が上位就職先となっている。

短期大学では日本郵政グループの合格者が増え、ワールドエンタプライズ（成田空港旅客グランドサービス業務）やJR東日本リテールネット、日本レストランエンタプライズ、新幹線メンテナンス東海等のJR関係企業、オンワード樺山、カネボウ化粧品販売、INAX、日本生命など本社が首都圏にある企業で、業種も複合サービス、小売、金融、サービス、製造とさまざまとなっている。また、幼児教育保育学科は4年連続100%の就職率を達成し、その中でも公立保育所に4名が採用された。

2008年度就職者数（大学）

区 分		卒業生	就職希望者	就職者	就職率(%)	
人間科学部	心理教育学科	108	90	81	90.0	
	現代社会学科	83	80	73	91.3	
	コミュニケーション学科	70	69	59	85.5	
	計	261	239	213	89.1	
国際学部	国際関係学科	33	国際協力学専攻	28	26	92.9
	国際ビジネス学専攻		68	58	85.3	
	英米語学科	47	40	36	90.0	
	計	151	136	120	88.2	
コミュニティ振興学部	コミュニティ文化学科	61	58	51	87.9	
	ヒューマンサービス学科	96	92	84	91.3	
	計	157	150	135	90.0	
大学合計		569	525	468	89.1	

2008年度就職者数（短大）

区 分		卒業生	就職希望者	就職者	就職率(%)
キャリア教養学科		122	111	106	95.5
幼児教育保育学科		131	130	130	100.0
生活科学科	生活科学専攻	45	39	37	94.9
	食物栄養専攻	83	77	72	93.5
短大合計		381	357	345	96.6

これからの日本語

日本にいて日本語があるのはあたりまえ、と思うが、そうでないこともあり得るかも知れない、と想像してみたことがあるだろうか。

昨春、ヨーロッパの教育事情を視察するために訪れたあるドイツの小学校で、校長が顔を曇らせながら、移民の子どもたちがドイツ語を学ぼうとしないことがPISAの点を低くしている原因だ、と話しているのを聞き、これは他人事ではないと思った。

ドイツは戦後たくさんの外国人労働者を受け入れてきた国だが、かつてはたとえ外国人労働者の子どもであってもドイツで高等教育を受けようと思えばきちんとドイツ語を学ばなければならなかった。しかし今、高等教育は英語で受ける方が有利という時代になり、ドイツでも英語で授業の行われる大学は少なくないと聞く。となればやはり移民の子どもたちが自分の母語でないドイツ語を、苦勞して学ぶ意味はなくなる。

同じことはグローバル化の進む日本社会にも遠からず起こりうることである。日本で仕事をするために日本語をしっかりと学びたいと思っている人たちもいるが、その子どもたちに同じ気持ちを押しつけることはできない。それにもまして気になるのは、これから先日本人の子どもたち自体の国語学習に対す



企業別就職者数（大学）

業種	企業名	2008	2007
複合サービス事業	日本郵政グループ	18	19
金融業	茨城県信用組合	14	10
金融業	株式会社常陽銀行	9	15
小売業	株式会社ケースホールディングス	8	6
小売業	株式会社カスミ	7	7
金融業	株式会社関東つくば銀行	6	5
金融業	株式会社茨城銀行	6	9
小売業	茨城日産自動車株式会社	5	6
運輸業	東日本旅客鉄道株式会社（JR東日本）	4	7
金融業	水戸信用金庫	4	3
小売業	茨城トヨペット株式会社	4	3
公務	茨城県警察本部	4	12

企業別就職者数（短大）

業種	企業名	2008	2007
複合サービス事業	日本郵政グループ	8	4
サービス業	ワールドエンタプライズ株式会社	7	2
小売業	株式会社JR東日本リテールネット	5	5
小売業	株式会社オンワード樺山	4	3
卸売業	カネボウ化粧品販売株式会社	4	2
サービス業	株式会社日本レストランエンタプライズ	4	2
金融業	株式会社常陽銀行	3	3
小売業	株式会社ケースホールディングス	2	1
複合サービス事業	茨城県市町村職員共済組合	2	0
製造業	株式会社INAX	1	0
金融・保険業	日本生命保険相互会社	1	1
サービス業	新幹線メンテナンス東海株式会社	1	0

その他の就職状況

建設業	積水ハウス株式会社
	大和ハウス工業株式会社
製造業	株式会社東芝
	日立電線株式会社
情報通信業	株式会社茨城計算センター
運輸業	株式会社JALナビア
	ヤマト運輸株式会社
	佐川急便株式会社
卸売・小売業	資生堂販売株式会社
	関彰商事株式会社
	日通商事株式会社
	イオンリテール株式会社
	茨城トヨタ自動車株式会社
	株式会社水戸京成百貨店

卸売・小売業	株式会社ヤマダ電機
金融・保険業	株式会社みずほ銀行
	商工組合中央金庫
	東京海上日動火災保険株式会社
	株式会社損害保険ジャパン
医療・福祉	茨城県立中央病院
	財団法人筑波メディカルセンター病院
複合サービス事業	茨城県教職員組合
	水戸農業協同組合
サービス業	株式会社伊勢基本社
	近畿日本ツーリスト株式会社
	株式会社リクルート
	株式会社モビリティランド ツインリンクもてぎ

サービス業	日立商工会議所
公務	防衛省（陸・海・空自衛官）
	警視庁
	水戸市役所
	笠間市消防本部
	稲敷市役所 （幼稚園教諭・保育士）
	大子町役場 （幼稚園教諭・保育士）
	東京都中央区役所 （幼稚園教諭・保育士）
	福島県いわき市役所 （幼稚園教諭・保育士）

諸澤 篤子 [学校法人常磐大学 常任理事（一貫教育担当）]

るモチベーションを上げていくことができるのだろうか、ということである。今、大学の国際化の波の中で、日本の大学の授業も英語で行われるべきだと言われているし、外国の大学で勉強することもこれからはますます社会的には有利なこととなるだろう。

ある言語が衰退していく理由の一つとして、その言語の経済的な有用性が小さくなることがあげられるが、対・英語という観点から見れば日本語の行く末は確かにあまり明るいとはいえない。もちろん佐藤紘彰氏が3月29日付けのジャパントイムズで指摘しているように、日本語の将来に関して、過度に悲観的な見方をするのは適切ではないと思うが、その一方で、苦勞に苦勞を重ねて漢字を覚えても、賽の河原の石が崩れるようにまた忘れてしまう子どもたちや、複雑な「敬語システム」に辟易している外国人を目の当たりにして、やはり日本語がこのままで良いのだろうかと思う。

日本人にとっても外国人にとっても習得がし易く、分かり易い、コミュニケーションの受信者・発信者双方にとって「親切」な「これからの日本語」を、日本語使用者である私たち自身が考えていくことが必要なのではないだろうか。

学生の豊かな人生を支援する教養教育を実践

● 2008年度第2回常磐短期大学FD研究会開催



教員の授業や教育環境を改善する取り組みの一環として『2008年度第2回常磐短期大学FD研究会』が、3月6日に行われた。常磐短期大学は、これまでも秋 semester の間にFD研修を実施。教員が研修期間内に他の教員の授業を参観し、そこで得た教授法を自身の授業に生かすなどFDに対して積極的な姿勢で臨んでいる。そして今回の研究会では、キャリア教養学科の取り組みを紹介。短期大学副学長で現代教養講座を担当する安田尚道教授を演者とし、



安田尚道教授

『キャリア教養学科の理論・実践・実際～ケイパビリティの観点から～』というタイトルで現状報告が行われた。ケイパビリティとは、主に経済学で使われる言葉だが、ここではより良い生活を手に入れるための個人の生活形成能力を指している。

安田教授は、まず、教養学科と経営情報学科の合併により誕生したキャリア教養学科新設当時の状況を説明。高校生や高校教員に対するアンケートから問題を設定し、その問題をクリアする学習プログラムの構築プロセスを紹介した。また、キャリア教養学科の教養教育はケイパビリティにつながり、それが就職内定率を高めるエンプロイヤビリティ（雇用される労働能力）を向上させることにも言及。学生たちの質の高い生活に役立つ教育の重要性を語った。

現在、短期大学は、志願者数、就職内定率共に高い水準を維持している。しかし、それに満足することなく、今後もFDに取り組んでいく方針だ。

408名のたくさんの夢に向かって、高等学校入学式

● 常磐大学高校の一員として新たな世界に羽ばたく

4月7日、2009年度常磐大学高等学校の入学式が常磐大学記念体育館で行われた。満開の桜の花に囲まれながら、緊張した面持ちで会場に集まった新入生。真新しい制服に身を包んで入学式に臨み、会場は新しい躍動の雰囲気に包まれた。クラス担任から一人ずつ名前が読み上げられると元気よく返事をし、常磐大学高校の一員として、新たなスタートを切った。浅岡廣一校長は式辞の中で、高校の校訓である「頼れる自分になる」「正しい自分になる」「豊かな自分になる」についてふれ、自



入学式に臨む新入生たち

⇒生徒会長の梶浦さんから歓迎の言葉を聞く新入生。



←新入生代表宣誓をした西さん。



己形成のために何が大切なのかを考えてほしいと語りかけた。そして、そのために常に学ぶ姿勢を怠らないことが大切である、と述べた。また、在校生からは、「充実した環境の中で、私たちと一緒に新しい歴史と伝統を創っていきましょう」と歓迎の言葉があった。新入生の数以上の保護者の方々の出席もあり、会場のあちこちで、ほほえましい光景を目にすることができた。常磐の新しい仲間がそれぞれの夢に向かって大きな一歩を踏み出した。

智学館中等教育学校

NEWS*

智学館に2期生が入学

● 86名が新たな一歩を踏み出す

暖かな春の日差しに照らされ、真新しい制服姿が初々しい86名が智学館の校門をくぐった。4月7日、2009年度智学館中等教育学校の入学式がWest Gymnasium (第一体育館) で執り行われた。

今年度より学校長に就任した小田卓爾校長は、式辞のなかで智学館の教育の基本理念である『人間の尊厳を大切に、世界的視野で考え行動できる人材を育てる』について述べ、「これからの智学館の生活で、できるだけ多くのことに挑戦してほしい。すべてが上手くゆくとは限らないが、挑戦しなければ何もできない。そして、上手くゆかなかったことも大切にして、先につなげてほしい」とことばを贈った。

また、在校生を代表して生徒会長の横田碧さんが、「勉強を楽しみに変えていきながら、共に力を合わせ、智学館を素晴らしい学校にしましょう」と歓迎のことばを述べ、新入生を代表して永井柚帆さんが、「智学館で過ごす6年間が一生の宝物となるよう学校生活を送っていきます。



①真新しい制服に身を包んだ新入生たち。②誓いのことばを述べる永井さん。③歓迎のことばを述べる横田さん。

私たち一人ひとりが未来を切り拓くために、86個の夢に向かいみんなで協力し、日々努力することを誓います」と誓いのことばを述べた。

智学館は、まだ産声を上げたばかりで、まだまだ十分でないところがあるが、逆に可能性が掘り尽くせないほど埋まっている。歴史の基盤をつくる限りない魅力のある智学館の2年目が幕を開けた。

常磐大学幼稚園

NEWS*

マナビー(学び)の日の取り組み

● 小学校生活へのスムーズな接続のために

2008年度より、年長組において『マナビー(学び)の日』の取り組みを実施した。小学校生活へスムーズに接続できるように、タイムスケジュールを幼稚園での生活から小学校での生活に合わせ、内容も幼稚園教育要領の5領域の範囲内で小学校学習指導要領(第1学年)の単元に繋がると考えられる内容で幼児に過負担とならないものをピックアップし、楽しみながら取り組める手法で行った。

〔ねらい〕

- ①小学校生活のペースを掴み、就学をスムーズに行えるようにする
- ②小学校以降の学習の基礎となり得る活動を幼稚園教育要領の範囲内で行う

内容は、小学校第1学年の学習指導要領の国語および算数を中心とした教科の単元へつながる内容より、幼児が興味を持ち、自ら進んで行えるものを選び、小集団(5名~15名くらい)で行った。小学校での学習の先取りではなく、あくまでも幼稚園教育(幼稚園教育要領の範囲内)であることを条件に進めてきた。

2008年度は主活動として、言葉遊び(しりとり・いろはにこんぺいとう・山手線ゲーム・自己紹介・連想ゲーム)、文字遊び(ひらがなカード遊び・カタカナカード遊び)、数遊び(数字並べ・神経衰弱・7並べ・じじ抜き)、図形遊び(パズル)等を行った。



常磐大学大学院
常磐大学
常磐短期大学
常磐大学高等学校
常磐大学幼稚園
智学館中等教育学校

寄付者ご芳名 *敬称略 [期間 2009年3月]

皆様のご厚情に深く感謝し、以下のとおりご報告いたします。

◆一般寄付

寄付者	金額	内容
常磐大学 2008年度卒業生 (565名) 一同	650,000円	常磐大学卒業記念品代
常磐短期大学 2008年度卒業生 (380名) 一同	400,000円	常磐短期大学卒業記念品代
諸澤 篤子 (常任理事)	10,000円	学校法人常磐大学に対する教育支援
宮田 雅史 (寄付資産運用課統括)	30,000円	同上
江原 昌義 (常磐大学高等学校教諭)	30,000円	同上
河野 公紀 (智学館中等教育学校教諭)	5,000円	同上

◆現物寄付

寄付者	内容
常磐大学高等学校後援会	常磐大学高等学校 課外活動備品 1点

◎寄付金の申込みおよび問合せ先

学校法人常磐大学 寄付資産運用課 TEL : 029-232-2759 E-mail : kifu@tokiwa.ac.jp
URL <http://www.tokiwa.ac.jp/tokiwa/kifu/>

2009年度役員等一覧

(2009年5月現在)

理事長	諸澤 英道	元常磐大学長、同大学大学院人間科学研究科教授	
特別顧問	西原 春夫	元早稲田大学総長、同大学名誉教授、元全私学連合会会長	
顧問	阿部 充夫	(財)放送大学教育振興会会長、元文部事務次官	
	Gerald L.Curtis	コロンビア大学教授	
	中西 元男	(株)PAOS代表取締役社長	
	Hans J.Marx	(学)南山学園理事長、南山大学附属小学校長	
理事	大谷 啓治	上智大学名誉教授、元上智大学長	
	関 正夫	関彰商事(株)代表取締役会長	
	宮田 武雄	茨城県立産業技術短期大学校長、元茨城大学長、同大学名誉教授	
	渥美 東洋	中央大学名誉教授、元(学)中央大学理事	
	佐久間 正祥	水戸赤十字病院長	
	高橋 潤二郎	アカデミーヒルズ顧問、慶應義塾大学名誉教授	
	諸澤 英道	元常磐大学長、同大学大学院人間科学研究科教授	
	高木 勇夫	常磐大学長・常磐短期大学長	
	常任理事 (人事・財務担当)	小櫃 重秀	(学)常磐大学事務職員
		(研究教育支援担当)	糸賀 茂男
(一貫教育担当)		諸澤 篤子	元上智大学講師
(100周年記念事業担当)		竹中 治利	元常磐短期大学教授、元同短期大学副学長
監事	荒川 誠司	弁護士、荒川法律事務所	
	若山 実	税理士、若山実税理士事務所	
評議員 (学識経験者)	宮田 武雄	茨城県立産業技術短期大学校長、元茨城大学長、同大学名誉教授	
	佐久間 正祥	水戸赤十字病院長	
	立原 久	元(株)常陽銀行常務取締役	
	諸澤 篤子	元上智大学講師	
	村田 幸子	元NHK解説委員	
	川勝 平太	静岡文化芸術大学長	
	石渡 千恵子	石渡産婦人科病院副院長、元茨城県教育委員会委員長	
	竹内 順一	茨城交通(株)取締役社長	
	澁谷 勲	(株)常陽銀行取締役会長	
	高橋 潤二郎	アカデミーヒルズ顧問、慶應義塾大学名誉教授	
	竹中 治利	元常磐短期大学教授、元同短期大学副学長	
	(教職員)	津田 葵	常磐大学国際学部教授
		江波 諄子	常磐大学人間科学部教授
		浅岡 廣一	常磐大学高等学校長
		小田 卓爾	智学館中等教育学校長
	(卒業生)	榎本 正明	常磐大学幼稚園長
齊藤 久展		(学)常磐大学事務職員	
池田 正則		常磐大学同窓会会長	
中崎 啓子		常磐短期大学同窓会みわの会会長	
(学生・生徒の保護者)	住谷 里子	常磐大学高等学校常磐学園同窓会副会長	
	郡司 恵一郎	常磐大学後援会会長	
	菊池 尚	常磐短期大学父母の会副会長	
参与	生井沢 康代	常磐大学高等学校PTA副会長	
	藤村 和男	(財)教科書研究センター参与	
	田中 茂範	慶應義塾大学環境情報学部教授	
	栄 陽子	栄陽子留学研究所長	

—表紙写真解説—

Tokiwa Memories

*5

常磐学園短期大学が開学した当時は、見和キャンパスの周辺は砂利道と田んぼに囲まれ、のどかな雰囲気である。その後、道路や公園の整備が進み、見和キャンパスにも、幼稚園、大学、大学院が開設され、学校法人常磐大学の中核キャンパスとなる。

編集後記

初夏の風がキャンパスを吹き抜け、樹々の緑も色濃くなってきました。この多くの命が著しく成長する季節に、学校法人常磐大学でも開学以来の成長を表すさまざまなプロジェクトが推進されています。それが、開学100周年記念事業です。現在展開されている数々の事業は、新しい時代を築く第一歩。大きな成果が得られるよう、全学一丸となって取り組んでいます。